

2023年8月8日掲載 輸送経済新聞

第一貨物 動画活用し教育強化 内容均一化、機会増に

第一貨物（本社・山形市、米田総一郎社長）は2年前から、新人・中途採用のドライバー教育で動画配信を活用。教育の均一化や学習機会不足を補うことで、ドライバーの業務品質向上、指導の負担軽減を図っている。

動画を使い、多店舗・多拠点展開する企業向けに全従業員が技術・知識の標準化支援を手掛けるクリップライン（Clip Line）のサービスマークアップライン」を、2021年4月に試験導入。同年8月、全71拠点で本



積み付けに関する動画は30秒程度で構成



格導入した。ドライバー教育強化や従業員約4500人の情報共有で活用している。

定型の箱物に加え、ドラム缶、袋物、パレット

物など多様な形状の荷物を扱う特積みの輸送品質確保には多くの知識・技術が要る。基本の安全運

転教育を含め、同社長はJ-T（職場内訓練）を中心に社員教育を行っているが、先輩からの口頭や紙のマニュアルでの指導

も多く、内容にバラつきが生じる課題があった。短時間で要点手軽に見られ

コロナ禍で従来通りの集合研修が難しい状況もあった中、集合研修を補完し、教育内容の均一化を図れるクリップラインを導入。積み付け、追突

防止といったドライバー向け教育動画をメインに動画は約700本。30〜60秒程度を軸に構成し、スマートフォンでも視聴可能で、業務の隙間時間に負担なく学習できる。ドライバーの初級研修では、保護材、荷役器具の取り扱い、荷扱い、積み付け、フォークリフト

操作・走行時の注意点を能を活用して実施するなど、より一体感のある組織構築へ、社内情報インフラとしても積極活用している（第一貨物）。

他に、全社に向けた社長メッセージ、営業職向けビジネススマナー、ロジスティクス部門作業手順も配信している。「社長メッセージや好事例の動画をスピード感を持って全社に配信したり、従来紙で行っていた社内調査をアンケート機

（矢田 健一郎）